

通信小海

故郷の山河を



牧師 水草修治

新緑の里山のかなたに雪をいただいた八ヶ岳。せいせいと流れる千曲川。故郷の山河を、愛する人たちを守りたいというのは誰もが抱く感情である。今、若者たちの間に「家族を、故郷の山河をまもるためなら戦争に行く」ということばが流行しているそうである。しかし、戦争に行くことは本当に愛する者たちを守ることになるのだろうか。

角田房子『墓標なき八万の死者』という本を読んだ。八万の死者とは、満州の地で死んだ満蒙開拓団の人々である。しかも四十五歳以下の男たちは根こそぎ召集されていたから、八万の大半は年寄りと女と子供だった。昭和二十年二月、米英・ソ連の三首脳が

今月の御言葉

「争いの初めは水が吹き出すようなものだ。争いが起こらないうちに争いをやめよ。」箴言 十七・十四

ヤルタ協定を結びドイツ壊滅後、ソ連が参戦することを決めた。日本軍司令部は、それを察知しドイツ敗戦後二ヶ月後には、ソ連が侵攻してくると踏んで、満州北東部は放棄すると決定した。

当時、満州北東部には全開拓団の半数以上の人々が住んでいたが、国境地帯の日本人が大量に移動すれば、ソ連の参戦が早まることを恐れ、軍は開拓民の避難措置はとらなかつた。国体（天皇中心の国家体制）を守るために、日本軍首脳部は開拓民を見捨てることに決めたのだった。

運命の八月九日の朝、満州黒台の信濃村開拓団の農民は、空飛ぶソ連軍機を友軍機だと思ひ頼もしく見上げて畑仕事に精を出していたという。それが敵機だと知ったのは機銃掃射された時である。開拓民は怒涛のようなソ連軍にあるいは殺され、あるいは自決に追い込まれていく。かつて「無敵」を豪語して

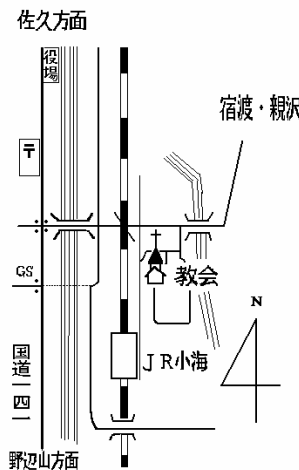
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三五五 二七

千三八四一一 二二 二六七九二四七七六

カンパ宛先 振替 005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上・南相木で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

いた関東軍はすでに去っていた。それまで開拓民は、「世界最強」の関東軍を信頼しきって、自分たちの食を削って良質の収穫物の供出してきたのだが。

「家族と故郷を守るために戦争に行く。」というセリフは、ロマンチックな誤解である。そもそも「軍隊とは国民を守るものだ」というのが事実誤認である。軍隊とは、時の国家体制を守ることを任務とする。したがって、軍隊は国家体制を守るためとあらば、何万と言つ国民を犠牲にする。関東軍とその兵士たちだけが卑怯者だったというのではない。沖繩戦でも同じことが起こっている。いや洋の東西を問わず軍は国民を犠牲にしてきた。司馬遼太郎は「軍隊は住民や国民を守るものではない。」と明言しているし、自衛隊出身の軍事専門家潮匡人も『常識としての軍事学』で「軍隊は何を守るのかと言い換えるなら、その答えは国民の生命・財産ではありません。それらを守るのは警察や消防の仕事であって、軍隊の本来任務ではないのです。」と軍事の常識を述べている。

「家族を守るために、ふるさとの山河を

守るために」人殺しをし、自ら死ぬほどの覚悟がある若者は、むしろ戦争を起こさないために、時流に流されずよく調べ、考えて、賢明な選択をすることが大切なのではないだろうか。

「争いの初めは水が吹き出すようなもの。争いが起こらないうちに争いをやめよ。」

箴言 十七・十四

海尻で家庭集会

五月十一日(金)午後七時半井出博彦さん宅で、聖書を読む会をします。ご一報くださってお越しく下さい。 **96 2534**

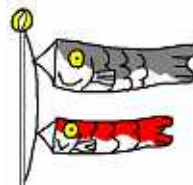
南相木でも家庭集会

* 五月十八日(金)午後七時半から九時日向中島悦子さん宅です。

* 家庭集会には牧師夫婦がかけ、聖書を読んだり賛美歌を歌ったりします。近くから遠くから、どなたでも気軽にどうぞ。

信州から野宿者支援

慶弔未使用切手が引き出しに眠っていませんか？



山谷農場では、物資を広島で炊き出し活動をしている方にも郵送しています。もし、慶弔未使用切手のあまりが引き出しに眠っているようでしたら、問題なく使用できますので、いただけたらたいへん助かります。

山谷農場事務局(藤田 寛) 小海町芦谷

ヒルサイドコーポ一 二号室毎週金曜・土曜は
あります。電話090・1436・6334

〒747042・78602088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパニ振替 一四 四 五三七九六

かぎ



さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々はわたしをだれだと言っていますか。」彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言つ人もあり、エリヤだと言つ人もありません。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」

するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしは、あなたに天の御国のかぎを

上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」

その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行つて、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならぬことを弟子たちに示し始められた。」

マタイ福音書十六章抜粋

「あなたは生ける神の御子キリストです」という信仰告白を受けて、イエスはただちに「ご自分が十字架で処刑され、三日目によみがえることを告げました。キリストの救いは、十字架と復活に根拠があります。」

イエスは教会に天国の鍵を託されました。その鍵とは福音です。「神の御子イエスは、あなたの罪の呪いを背負うために十字架で死んでくださいました。そして、三日目に復活されました。ですから、イエス様を信じなさい。そうすれば、あなたも神に罪をゆるさされて、天国に入ることができます。」これが福音です。これが、聖書が教えている一番

大切なメッセージなのです。

「私には神は必要ないし、イエスなど私とは関係ない」と言っている人は、神と断絶しています。もし神に背を向けて一生を終わらせてしまえば、神のいない永遠の滅びつまりゲヘナにおちいつてしまいます。

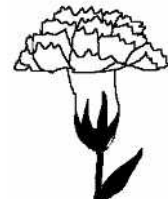
ですから、誰でもー日本人もアメリカ人もインド人も男も女も坊さんも牧師も年寄りも中年も若者も子どもも 天国に入りたいならば、[^]神に対する悔い改めと主イエスに対する信仰^vの決断が必要です。まず、神に背を向けて歩んできた自分はまちがっていたことを認めて、神様に立ち返り、イエス様を信じるのです。もしあなたが救われたいならば、声に出して次のように祈ってください。たましいに平和が訪れ、死んでも死なない永遠のいのちがいただけます。

「イエス様、私は今日まであなたに背を向け感謝もしないで生きて来ました。どうか恩知らずだった私の罪をゆるしてください。私は今、あなたに立ち返ります。そして、イエス様が私の罪からの救い主であることを信じます。」

なぜ勉強するのか

ラジオでこんなこと

を言っていた



「おかあさん。なぜ勉強しなければいけないの？」と子ども。

「そりゃあ、勉強しなきゃ、いい学校に行かないからでしょ。」と親。

すると、子どもは「なんでいい学校に行かなきゃいけないの？」と尋ねる。

親は「いい会社には行って、安定した収入を得るためでしょ。」と答える。

すると、子どもは「なんで安定した収入が必要なの？」と食い下がる。

貧しくて上昇志向の時代には、「安定した収入」と言えば、たいていの子どもたちは納得したのかもしれませんが、車があり自分の部屋がありテレビもゲーム機もパソコンも携帯も買ってもらえる今の時代には「安定した収入」というのは子どもには切実ではなく

なっています。

そもそも勉強することを将来職業につくための準備としか考えられないところが、私たちの発想の貧困というものでしょう。職業訓練校はズバリその目的でよいのですが、一般の学校で数学や理科や歴史や国語を学んで、直接的に職業に役立つことなどこくわずかです。

話していたのは鈴木光司という作家です。では何のために勉強しなければいけないのか？鈴木氏がいうには、それは「人類の進歩に貢献するため」です。

人類はさまざまな問題に直面するとき、国会であれ役場であれ町内会であれ家庭であれ議論をします。その議論の質が少しでも高められるならば、議論は実りあるものとなり、問題に対するより良い対策を見出すことができ、社会はより良くなる。肝心なことはその議論の質を高めること。そのためには、風潮に流されず問題をただしく理解する力と、解決を見出す想像力と、その想像した構想を人にわかりやすく正確に感動的に伝える表現力です。この理解力・想像力・表現力をしっかり身につけるためにこそ、さまざま

な科目の勉強を広く深くしっかりとすること
が役に立つというのです。これをはっきり伝えられたら、子どもは放っておいても勉強をする。

先日、全国一斉学力テストというのが実施されましたが、表現力重視の出題が話題になりました。書く力を求められたのです。

昨年来、筆者の学習室では、作文教室をしています。今行なっていることは、理解することと表現することの訓練です。まず、新聞の社説・コラムを材料としてこれを正確に読み取る訓練。次に、一週間かけてその文章の主題にかかわる作文を自由に書いて読み合わせる。なかなか面白い文章が書けるようになってきました。理解力・創造力・表現力というのは、あらゆる学習と生活の原動力になります。

中学生学習室

科目は：英語 と 国語(理解と表現)
一クラス六名まで

申し込み・電話 924776